

## ヤスクニ・レポ 265 チェルノブイリ、福島、ウクライナ侵攻

小川 正明(日本基督教団小金教会会員)

2月24日、冬季北京オリンピックとパラリンピックとの間にロシア軍はウクライナ国境を越えて侵攻を始めた。

2013年9月7日安倍首相は東京オリンピック招致プレゼンテーションで、「汚染水による影響は、福島第一原発港湾内の0.3平方キロメートル範囲内で完全にブロックされている」と全世界に大うそを吐いて、誘致を決めた。復興五輪とは名ばかりで、コロナ禍ということもあり、盛り上がりもなく、終わってしまった。

安倍首相はまた、日本の原子力規制委員会の規制基準について何の根拠も示さず世界一厳しい基準であると言い、この規制委員会の審査に合格した原発は安全であるとして原発の再稼働を推進した。

しかしながら、原子力規制委員会の田中委員長は、「この規制基準には合格したと言っているだけで、安全であるとは申し上げておりません。」と明言している。

そもそも、40年も前に建設された原発に外から多少手を加えただけで合格できるような規制基準が現在の世界の原子力保安基準に比べられるとは到底信じられない。耐震基準一つをとってみても、設計時の地震動の想定を超える地震が柏崎刈羽原発でも福島原発でも繰り返されてきた。それでも地震では壊れなかった、津波で壊れたのだと原発推進側は強弁している。

2011年3月11日以前の住民の放射能汚染に対する除染基準は、体表面で6千cpm以上と決められていたが、事故後すぐに1万3千cpm以上とされ、さらに3月13日、医療調整本部がこれを10万cpm以上に引き上げることを会議で決定した。除染能力の不足と迅速な住民の避難のためには止むを得ない決定だったと思うが、住民の健康を守るための基準が緩められ、追跡することもできなくなったことは問題である。

トリチウムを海に流すことは、安全ではない。それゆえ、排出基準を定めているのであるが、原子力発電所の排出基準に合わせると、再処理工場は稼働できなくなる。排出基準を緩めることは技術的にも経済的にも必然的なことである。

福島原発の汚染水を海に流すことは、直近の経済的判断でしかない。将来に渡って禍根を残すことについては、今の政治家(屋)は考えない。

2011年3月首都圏でも、原発爆発後に北東の風に運ばれてきた放射性物質が、たまたま雨の降った利根川と江戸川にはさまれた地域に降り注いだ。これらの雨水が流れ込んで溜まりやすい場所では放射線濃度の上昇が確認された。特に高い所はホットスポットとも呼ばれた。私も当時数か所で、ガイガーカウンターで計測して、平均的な場所に比べて数倍になる地点を確認することが出来た。

私は2012年の秋に郡山に行く機会があったので、ガイガーカウンターを持って行った。郡山駅から大通りを西の方に向かって2km程上って行くと市役所に着くが、この間を歩いてみると、西に上る程放射線が強くなるように思われた。途中で小さな公園があり、ここにモニタリングポストがあって、放射線量が表示されていた。この値がどの程度正しいかは分からないが、気が付いたことは、公園内がとてもきれいに清掃されていたことである。落ち葉ひとつも見られない程である。公園内はこのように除染が行き届いているのだろうと思われる。持参のガイガーカウンターで測ってみると、公園内に比べて、外では明らかに高い値を示していた。市役所の門の近くにもモニタリングポストが設置されていたが、やはりこの周囲もきれいに清掃されていた。

その後市内を散策してホテルに戻ってから、ガイガーカウンターの表示を見ると、表示が2桁も加算されているので驚いた。今歩いて来たどこかに極めて高いホットスポットがあったものと思われる。この値を見て、首都圏でのホットスポットなどとは桁違いに深刻な状況であることに思い知らされた次第である。

2011年3月11日に発令された原子力緊急事態宣言は、11年経過した現在も解除されていない。

事故直後ならば、止むを得ないかもしれないが、これが原発事故の現実なのだ。緊急事態宣言を続けなければならないのは、平常時の被曝線量に戻すと、廃炉作業ができなくなるからではないか。それだけ作業員の健康を無視していることになる。勿論すべての領域が劣悪な状況にあるとは思わないが、場所により、あるいは今後悪化する可能性があることに備えているのではと疑われる。

一方でこの危険な地域に、避難している元住民を帰還させようとして各避難地域で住宅を奪うなどの暴挙が行われている。

不検出は無（ゼロ）ではない。

秤量120kgの体重計に、コーヒースーガー3gを載せても体重計の針はピクリともしない。これも不検出の例ではあるが、これを台所にあるキッチンスケールに載せれば正確に3gと表示する。さらに大学の研究室などにあるマイクロバランサーを用いると100万分の1gでも検出できる。

微量なものを検出しようとする分析者と「不検出」を期待している検査員とでは結果が異なることは容易に予想できることである。不検出と言うならば、だれが、どのような方法で測定したのかを明らかにしなければならない。

ロシアのウクライナ侵攻

「特別軍事作戦」であり、戦争ではない、「非武装化、非ナチ化」と言っている。また、軍事施設のみを攻撃している、市民は攻撃しないと言っているが、都市を砲・爆撃することは市民を攻撃することである。あるいは、都市にいる住民は子供、幼児にいたるまですべて戦闘員と見做しているのだろうか。

核兵器でNATOを威嚇し、チェルノブイリ原発、ザポリージャ原発をも制圧した。全世界がロシアを非難している。直ちに戦闘を止め撤退することを求める。

## 2022年3月18日例会奨励

### 「きょうも明日も次の日も」ルカの福音書13章31-35節 日本同盟基督教団 横浜上野町教会 牧師 柴田 智悦

パリサイ人たちは、律法の解釈に関わる問題に集中して取り組んでおり、政治的なことには無関心でした。彼らはイエス様に親切心から警告したわけではなく、かえってイエス様をユダヤ地方に行かせて捕まえ、あわよくば殺してしまおう、と考えていたようです。一方、ヘロデ・アンテパスはイエス様に会ってみたいと思っており、実際にイエス様がピラトから送られて来ますと、喜びはしたものの結局ピラトのもとへ送り返してしまい、手を下そうとはしませんでした。やはり、パリサイ人たちがイエス様を亡き者にしたかったのであり、ヘロデを引き合いに出したに過ぎなかったようです。

しかしイエス様は、たとえヘロデがそうしたとしてもご自身の御業を続けられ、それが成し遂げられるまでだれにも妨げられない、と宣言されました。さらに、主の定められたその時が来たなら、イエス様はご自分からエルサレムに向かわれるのです。

ところがイエス様は、エルサレムの人々がこれから迎える結末について嘆いておられます。彼らがイ

「本の紹介」  
■東大著作『我々はなぜ戦争をしたのか 米国・ベトナム 敵との対話』（岩波書店、2000年）

吉村弘司

「米国・ベトナム 敵との対話」という副題をもつこの本は、ベトナム戦争を当事者として戦った両国の指導者が一堂に会し、歴史的な対話を行ったときの記録である。

アメリカの元国防長官であったマクナマラ氏は、1995年『回想録—ベトナムの悲劇と教訓』を出版し、そこで、ベトナム戦争がアメリカの犯した過ちだったことを認めた。この回想録で第一歩を踏み出したマクナマラ氏は、ベトナム側の指導者との対話を求め、1997年6月にベトナム・ハノイのメトロポール・ホテルにおいて歴史的な対話が実現した。

対話を通して、両国が互いに危機感と誤解の中にあつたことが明らかになっていく。南ベトナムにアメリカ軍が進駐する事態に直面した北ベトナムはも

エス様のみことばを受け入れず、いよいよ頑なになり、もはや裁きが避けられなかったからです。ついに彼らはイエス様を十字架にかけて殺し、そのわずか40年後にエルサレムはローマによって滅ぼされます。

しかし、十字架にかけられたイエス様の贖いによって、私たちの体とたましいは永遠の呪いから救い出され、永遠のいのちが与えられました。私たちの古い自分はイエス様とともに十字架にかけられて死んで葬られたのですから、私たちはもはや罪に支配されず、かえって自分自身を感謝の生きた供え物としてイエス様にささげて生きることができるようにされたのです。

イエス様がどんな妨害に遭われても御業を行なわれたように、私たちも、今日もあすも次の日も、天の御国を目指して進ませていただきましょう。回りに翻弄されることなく地道に私たちの使命を果たし、主の御心を成し遂げさせていただきます。

ちろんのこと、アメリカもまた、中ソを一枚岩と見なし、ベトナムで社会主義革命が起こることが東南アジアの共産化につながるというドミノ理論を信奉していた。そして、危機感による被害妄想と相手陣営への猜疑心から、歯止めのない軍事行動に走るのである。

北ベトナム外務省米政策局長だったチャン・クアン・コ氏は、「戦争を始めた後に終わらせようと努力するよりも、まず戦争を回避するための努力をすべきだということです。戦争は、長引けば長引くほど終結させるのが難しくなります。」と語っている。そして、大国に対して「自信過剰になるな。傲慢になるな。あなたの信念を他国にも話し、正しいかどうかを検証せよ」と警告を発している。大国の傲慢さと無知。強者の弱者に対する見下した構え。これらが戦争という悲劇の源泉にあることをこの本は教えてくれる。